

会 議 録

| | | | |
|--------------------|---|---|-----------|
| 会議の名称 | 令和元年度（2019年度）第3回豊中市立図書館協議会 | | |
| 開催日時 | 令和2年（2020年）3月18日（水）18時00分～19時30分 | | |
| 開催場所 | 豊中市立岡町図書館 集会室 | 公開の可否 | 可・不可・一部不可 |
| 事務局 | 読書振興課 岡町図書館 | 傍聴者数 | 0人 |
| 公開しなかった理由 | 新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、傍聴の受付を中止した。 | | |
| 出席者 | 委員 (敬称略) | 尾崎 理人 吉岡 一美 天瀬 恵子 松田 美和子 岸本 岳文 瀬戸口 誠 藤井 新二 | |
| | 事務局 | 小野教育委員会事務局長 須藤岡町図書館長 虎杖野畑図書館長 川上千里図書館長 西口庄内図書館長 山根岡町図書館副館長 永島岡町図書館副館長、伯井岡町図書館主査、大平岡町図書館主査、 芦田岡町図書館主事 | |
| | その他 | 欠席：山本（恵）委員、山本（晃）委員 | |
| 議題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊中市立図書館における高齢者サービスについて 2. その他 | | |
| 審議等の概要 (主な発言要旨) | 別紙のとおり | | |

令和元年度（2019年度）第3回図書館協議会 記録

日時：令和2年（2020年）3月18日（水）18時～20時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：(敬称略)

出席者：尾崎 吉岡 天瀬 松田 岸本(委員長) 瀬戸口 藤井

事務局：小野 須藤 虎杖 川上 西口 山根 永島 伯井 大平 芦田

資料確認

●事務局

議事に入る前に、進行などについて皆様にお願ひがある。

現在の豊中市においては、新型コロナウイルスの感染防止、拡大防止の観点から、図書館は全館休館している。また、動く図書館の巡回も中止し、団体貸出等一部に限って実施している。市民の方からは早く開けてほしいと要望を受けご不便をおかけしている。

集会室の利用も含めて利用を中止しているが、今回は次年度に向けて、ご確認いただきたい案件があり、換気や席の配置、消毒用アルコールの設置、時間の短縮などの感染防止対策をとり、決行させていただいた。豊中市では原則、会議を公開しているが、今回に限り感染拡大予防のために傍聴は受け付けていない。

本日、前回の高齢者サービスの討議を受け、事務局で作成したワークシートにご記入いただいたご意見を集約し、図書館側からの視点で追記したものをお示ししている。ご意見やご質問があれば受け、本格的な論議については来年度に入ってから進められたらと考えている。また、来年度策定予定の「(仮称)中央図書館基本構想」の策定に関わる骨子について、ご意見・ご質問をいただき、遅くとも7時30分には終了させていただきたく、議事の進行にご配慮いただけたらありがたい。

●委員長

はじめに、前回ご出席委員の皆様事前に送付している令和元年度第2回豊中市図書館協議会の議事録について、特に委員からのご意見がなかったため、概要として、発言者については個人名を掲載せず「委員」とのみ表記し公開することを了承いただきたい。

それでは、「【資料1】豊中市の高齢者保健福祉・介護保険事業の施策展開と図書館サービス事例」・「【資料2】資料1への意見集約」について説明をお願いする。

●事務局

資料1は事前に送付している資料で、豊中市の「高齢者保健福祉・介護保険事業の施策展開」の項目に図書館の高齢者サービスを当てはめたものになっている。こちらの資料を見ていただき、4名の委員の方からご意見をいただいた。

資料2は、いただいたご意見を集約したものである。1～2ページは先ほどの「高齢者保健福祉・介護保険事業の施策展開」の項目番号に対応した図書館サービスや高齢者サービスの事例に対していただいたご意見で、3～4ページは全体を通してのご意見をまとめている。資料2の表の右端の欄は、ご意見をうけて図書館職員が現時点での取組み状況を

記入したもののだが、内容は確定ではなく、これからの案も含んでおり、途中経過として報告する。ご提案いただいた内容に対して、一部取組みがスタートしていたり、あまり進んでいなかったり、さまざまな状況である。

本来、方向性などをさらにご審議いただくところだが、今回は十分に事前資料を検討する時間が取れなかったというお声もいただいており、既にご意見をいただいた委員の方には大変申し訳ないが、意見集約の期間を3月末まで延長させていただきたい。既にご意見をいただいた委員の方も追加で何か気が付かれた点などがあれば、今回の資料も含めご意見いただけたらと思う。その上で引き続き次年度の審議については、翌年度第1回目の開催までに委員の皆様からのご意見の集約方法も含めて相談しながら進めていく。メールを活用し、次年度1回目までに少しでも議論を進めていけたらと考えている。

●委員長

資料1に対して、質問、意見をお願いします。発言の際は挙手をお願いします。私のほうで指名させていただくので、マイクを使用してお発言ください。

高齢者全体を取り巻く状況を確認するというところで、まず、市の高齢者の状況を把握し、その中で図書館は何が出来るのか何をやっているのか、あるいはこれからどういった可能性があるのか、市の事例を挙げ、他市の図書館の実際の事例など調査したうえで、書き込んでいただいたのがサービス事業の資料である。

それに基づいて利用者様からの意見をまとめて、図書館での取組み状況をまとめている。何かありましたらどうぞ。

●委員

高齢者サービスの事例の中、図書館での徘徊事例への対応は、具体的にどうされているのか。最近徘徊者の情報がネット配信などを通じて入ってくるものもあるので、何か図書館では特別なことをされているのか、伺いたい。

●事務局

資料1の中で、図書館での徘徊事例の対応で挙げているのは、具体的対策が決まっているわけではない。実際、認知症かなと思われる方が来館したときに、職員が地域包括支援センターや社会福祉協議会に連絡した結果、ご家族が探されている方だったとわかったことがあり、臨機応変に対応して関係部署につないだ一例として上げた。

●委員

ネットで流れてくる豊中市の情報を見て、職員で情報共有をしていることはないのか。

●事務局

今の段階ではない。

●委員長

豊中市ではネットで緊急情報など発信しているのか。

●事務局

そういうシステムはない。

●委員長

システムがあれば、図書館側でも、きっちりと把握したうえでの対応を求められるだろう。他にないですか。

先ほど、事務局から指示があった通り、あまり時間もないが、きちんとしていかななくてはならないし、お気づきの点がありましたら、FAX やメールでお寄せいただいで次の会までに、もう一度皆様方にフィードバックして、お互いに議論出来ればと思う。意見を集約し、事務局側も対応する準備ができれば、次回の会議でもう少し進められるのではないかと思うので、どうぞご協力をお願いします。

高齢者サービスについては継続して議論を深めていくということで、ご理解いただきたい。

それでは、(仮称) 中央図書館基本構想策定状況について、資料3と4について事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料3について、2月4日に市立図書館関係団体向け公共施設マネジメント勉強会として開催した際の資料である。2人の委員にもご出席いただいた。この勉強会は、図書館事業に日ごろから深く関わってくださっている関係団体の皆様と一緒に、施設の更新や改修、中央図書館の機能の必要性について考えるための勉強会として開催し、26人に参加いただいた。資料3はその時にお配りした資料である。

まず、策定の主旨、(仮称) 中央図書館基本構想を策定する目的や論点とするべきもの、これまでの取組みと今後の取組み予定などを紹介した。

また、資料3の中の資料2で、(仮称) 中央図書館基本構想を策定するにあたって実施したアンケート調査の結果を紹介した。アンケートは2種類で、9月には無作為で抽出した市民3,000人を対象とした市民アンケート調査を、10月には図書館に来られた方を対象に来館者アンケートを実施し、市民アンケートは829人、来館者アンケートは1,995人の方にご協力いただいた。人数が違うので単純に比較できないが、中央図書館の機能や今後の図書館に求めるものに関する項目を抜粋し、市民アンケート調査と来館者アンケートを比較して紹介した。

市民アンケート調査と来館者アンケートの違いとしては、市民アンケート調査は普段図書館を利用していない人も対象者に含まれ、回答者の約半数がここ1年以内に図書館の利用をしていない人であったが、来館者アンケートの対象者は当然のことながら図書館を利用している人で、頻繁に利用している人も少なくないということである。

しかし、2つのアンケート調査結果には意外と大きな差異はなかった。多少の差異があった例を挙げる。

「どんな中央図書館であれば利用してみたいと思いますか」という問いに対して、来館者の方が図書館の本をよく読んでいるからだと思われるが、「蔵書の充実」を挙げる人の割合が高かった。

「今後豊中市立図書館で充実したらよい資料をお選びください」という問いに対し、来館者アンケートの回答者は、「読み物」「新しい本」を選んだ割合が突出しているが、市民アンケート調査の回答者は普段図書館を利用していない層も含まれ、「実用書」を選んだ割合が最も高かった。

「豊中市立図書館のこれからのあり方について、あなたのお考えに近いものをお選びください」という問いに対しては、「駅などの便利な場所に貸出・返却のポイントを設置」が両方のアンケート調査において多くの人に選ばれている。「現状のサービスと施設を維持」を選んだ人の割合は、来館者アンケートの方が市民アンケートよりも多い。来館者アンケートでは、「蔵書の充実」を選んだ人が市民アンケートよりも多い。

資料3の中の資料3は、勉強会を開催した際の資料である。一般財団法人建築保全センターの池澤龍三さんを講師にお招きし、公共施設マネジメントについてご講演いただいた。池澤さんは、千葉県佐倉市で市の職員として勤務したご経験があり、豊中市についてというよりは、日本全体の公共施設マネジメントの現状と傾向を、実例を交えてとても分かりやすくご講演していただいた。

日本では、主に高度成長期に計画されて建てられた建物が、次々と築50年を超えて老朽化が進んでいることや、老朽化に伴ってコンクリートブロックの落下などの事故が起きた事例があり、事故が起きる前に修繕などの予防措置が求められていることなどについてのお話をしていただいた。個人的に興味深かったのは、建物は建ててから50年以上使うわけだが、建築費用は全体でかかる費用の1/4~1/5程度で、残りは保守・点検、修繕、光熱水費などで、建築以外のコストの方が高いということ。

その他、今回策定する（仮称）中央図書館基本構想にも関わることであるが、施設の建築などを含んだ計画等を立てる際には、一応将来を見据えて立てるものではあるが、10年後20年後には状況が変わってしまう可能性を考慮に入れ、あえて余白を残す、というアドバイスをいただいた。計画策定後も、時代の変化やその時の状況に応じて柔軟に対応できるようにしておくことが大切である、ということであった。

●事務局

続いて、資料4「（仮称）中央図書館基本構想の骨子案」について説明する。

岡町図書館が築50年を超えるなど、図書館施設の老朽化が進んでおり、市民ニーズの変化への対応や事務事業の見直しの経過、豊中市公共施設等総合管理計画に基づく公共施設へのコストのかけ方などを踏まえて、令和2年度中に（仮称）中央図書館基本構想を策定することとしている。構想策定に向け、どのような内容をどこまでまとめるのか、現在の検討状況をご報告し、ご意見をいただけたらと思う。

構成としては、1で公共施設等総合管理計画などを含めた豊中市および図書館の概況、サービス状況などについて示し、延べ床面積を現状の8割にするという施設総量フレームを設定し、施設の今後の更新や複合化を進めることとしている。

2では、図書館職員によるプロジェクトチームにおいて検討した、職員自身が考える図書館の強み・弱みをまとめ、市民アンケートおよび来館者アンケートの結果の概略も述べている。図書館の強みとしては、豊中の全域サービス、市民協働のあり方、学校連携の事業など先進的な取組みを実施している一方で、弱みとしては人材や資料の分散が挙げられ

る。

3では、公共図書館を取り巻く動向として、全国の図書館の政策、他部局や民間施設との複合化の傾向、実際に視察を行った愛知県大府市や安城市の事例などをまとめている。

4は、豊中市立図書館のあり方についてで、職員によるプロジェクトチームでまとめた、中央図書館を含めたこれからの図書館全体の方向性を示すコンセプトと、今後の方針と具体的な取組みについて、挙げている。

5は、あるべき図書館サービスを実現するための施設配置の考え方や施設イメージの章立てである。

4と5の内容については、令和2年度に基本構想の策定する際に、より具体的な内容を検討し、市民ワークショップなどの合意形成の場を踏まえて、内容に盛り込んでいく予定である。

5年先、10年先を見据えて策定するものなので、まだこの骨子には十分その内容を表し切れていないが、今後については、例えば電子書籍などのメディアの対応や、市民ニーズの変化などが考えられる。北摂地域の連携やNATSのような新たな広域連携も生まれているので、そのような連携によるサービスの変化も考慮に入れ、来年度に向けて策定を進めていく必要がある。

この資料については、同じものを2月の庁内委員会および教育委員会会議でも示し、その際にも質問や意見をいただいている。例えば、教育委員会会議の中では、中央図書館の建築予定地が決まっているのか、といった質問をいただいた。

今後の予定としては、今回の協議会の意見を踏まえながら、来年度予定している市民ワークショップや庁内委員会も踏まえて構想策定を進めていく。

本来であれば、事前資料としてお送りして、じっくり見ていただく時間が必要であったと思うが、骨子の中で細かく書かれている部分とそうでない部分があり、まだ決まっていない部分も多々あるので、説明をしながらご覧いただくのが望ましいと判断したので、当日資料とした。

●委員長

それでは、資料3と4について、ご意見を伺います。

まずは、資料3の勉強会には、2人の委員が参加されたとのことだったので、その時の感想など、お聞かせください。

●委員

どこでどういう活動があって、という具体例がたくさんあり、面白かった。中でも印象に残ったのは、物事を動かす上で必要なのは、数字である、という話だった。気持ちだけで持っていても動かない。数字で裏打ちされたものがある初めて動かせる、ということだった。自分たちのように、図書館を良くしたいと思っている市民の活動は、思いがとても大きいですが、思いばかりでは動いてもらえない。数字に裏打ちされたものが物事を動かすことになる、ということあった。

●委員

印象に残っているのは、講師の先生が、公共の施設は安全に使えるてはならない、という例で、中学校の外壁の一部が落下した時に、人にあたらなかったからよかったとはいえ、そういうことではいけない、という話だった。資料の中にも大きなコンクリートの塊の写真があるが、こういうものが落ちてきたということだった。公共の施設は安全に使えるてはならないということと、数字の話と、維持していくためのお金が莫大にかかっていくこと、などのお話が印象的だった。

●委員長

客観的な数字による裏付けは、特に前へ進めていくときには説得力を持つということだろう。その点においては、図書館でも念頭に置いて進めていただければ。

(仮称)中央図書館基本構想の骨子については、全体の枠組みをこういう形にしていたということ、方向性や進め方、先ほどワークショップという話があったが、基本構想の策定を進めていく中で、市民の方々の参加をどうとらえていくか、なども含めて、ご意見をいただければと思います。

●委員

資料4の骨子で、アンケート結果などが記載された表面はよくわかるし、裏面についてはこれから変わる、もしくは書かれていくということであると思う。例示されているのが施設再編で、財源や利用者層の開拓ということだが、これ以外に、階層ごとの機能イメージというものもあると思う。施設配置、蔵書数と書庫の規模、役割と機能、というところで、具体的に今考えていることはあるのか。各館のレファレンス機能がどこまで維持されるのか、小中学生にとってどこまで使いやすい図書館であるのか、など、施設配置や基本的な考え方など、読んでみて具体的にイメージがわくような文章を入れていただけるとありがたいと思う。

数字による裏付けが必要という話があったが、市民アンケートで回収率が低かったということだが、以前、来館者アンケートでは地域や年齢層の偏りが見られた。回収率の高かった地域や年齢層があったのかどうか気になる。また、自習室に対するニーズが来館者アンケートよりも市民アンケートの方が高かったというのは、自習室の利用は10歳代、20歳代の学生だと思うが、やはり市民アンケートの方がその年齢層の回答率が高かったのか、というところも気になる。

1つ目としては、施設配置や方針、具体的取組みについては、読んでわかりやすい記載をしていただきたいということ。2つ目は質問で、アンケート調査でバイアスのかかった数字になっていないかという心配があるので、その点について説明願いたい。

●委員長

ではまず、施設配置について、構想の中では個別の館についても具体的に再構築した形で示していくべきということ、それぞれの館が今後変化していくと思われるが、どこまでそれが構想の中に盛り込まれるのかということであるが、これはぜひ盛り込んでいただきたい。そうしないと、市民への説得力が弱くなる。そのあたり、今考えている方向性が

あれば、お答えいただきたい。それから、アンケート調査についての質問への説明を、事務局からしていただきたい。

●事務局

施設配置について、イメージがわくように書く、ということについてであるが、図書館職員によるプロジェクトチームを短期間であるが立ち上げて図書館の強み・弱みを整理して、中央図書館に限らない図書館全体のコンセプトを考えた。来年度については、今年度実施したアンケートの分析も踏まえて、何が中央図書館に必要で何が分館に必要なのか、を整理して、今後5年先、10年先を見据えながら、どこにどのような機能を残すかについては、役割、機能、想定規模などを踏まえて施設配置の考え方を示していく。こういう施設にこれを入れる、ということではなく、こういうことをしたいからこういう施設がある、という流れを出したいと思う。そのため、まずコンセプトがあって、具体的取組みと方針があって、それから施設配置に下ろしていく、という流れにしたいと思う。

●事務局

続いて、アンケート調査について、市民アンケート調査では住民基本台帳を基に、地区別年齢別の比率に合わせて対象者を抽出したが、回答者の割合では、やはり60歳代以上の人が多めで、20歳代は回答者全体に占める割合としては数%になってしまっている。40歳代、50歳代の人からも、それなりに回答はしていただいている。来館者アンケートでは、なるべく年齢や性別が偏らないように配布していただいたので、結果的に市民アンケートとそれほど年齢層による偏りの大きな違いはない。若い年齢層の回答が少なめなのは来館者アンケートにもみられる傾向にある。ただし、若干であるが市民アンケートの方が20歳代の人々の回答が多かった。年齢によって回答が変わるのか、ということについては、子育て世代の回答の傾向ははっきりしており、子ども向けのスペースへのニーズは20歳代後半から30歳代の人々が突出して高かった。自習室についても、学生層にあたる10歳代から20歳代と、自身の子供が自習室を使うと思われる年齢層のニーズが高かった。これらは、市民アンケートでも来館者アンケートでも共通で見られた傾向である。

●委員長

施設配置について、市民の皆さんにとっては新しくできる中央図書館も注目の的ではあるが、それによって自分が使っている館がどうなるのかが最大の関心事になるかと思う。それについては、丁寧に説明しながら理解してもらい、という姿勢が求められるだろう。このことについては、もう少し考えていただければと思う。

●委員

図書館のコンセプトは「つながる。わたしの図書館で。」ということで、こども園でも「つながる」ということを大切にしているので、ぜひこのコンセプトをめざしてほしいと感じた。何年か後を見据えた構想ということで、何年か後には施設も古くなり、人も変わっていくことで、余白を残していく、という話であったが、余白を残すとはどういうことを指すのか。図書館の資料や人員が分散していることが弱みということであるが、それを

強みに変えていくために今後どのように取り組んでいくのか。アンケート調査について、図書館を利用していない学生や、こども園の保護者、地域子育て支援センターの利用者など、いろいろなところでアンケートをとってみれば、また違った結果が出たのではないかと感じた。将来的に NATS(西宮・尼崎・豊中・吹田)の各市の連携も考えているということだが、どのような連携を考えているのか。

●事務局

構想の余白についてであるが、これは勉強会の中で講師の池澤さんがアドバイスとしてお話しいただいたことである。実際に構想の中でどうするかは、また別の話になってくるかと思う。

●事務局

余白を残すとはどういうことか、というご質問について。公共施設は設計の基準が決まっていて、鉄筋コンクリート造りにして長く使う、ということが多いが、最近の民間の建物などでは割と簡易な構造で、壁や間仕切りを臨機に変えられる建物がある。例えば今の岡町図書館もそうであるが、機能転換はなかなか難しいが、図書館へのニーズが今と10年後では違ってくるということも考えられる。そういうことを見据えながら将来的なニーズに応えられるような建物をつくっていく観点も重要であるという話があった。公共施設の建設・設計の分野では、こういった傾向になっているので、中央図書館基本構想においても取り入れていきたい。

●事務局

いくつかご質問いただいている中で、資料や人員の分散という弱みのことがあった。これは裏を返すと、地域館が4館、分館・分室が各地域館のエリアにあるのが豊中の図書館の強みとも言え、今までは協議会の討議の中でも、身近なところに一定規模の図書館があるのが豊中の図書館の特徴の一つである、ということだった。今年度アンケート調査の実施の支援をしてくれた委託先事業者が驚いていたのは、豊中の図書館に行く際の交通手段として、自転車や徒歩が大多数であるということ。身近な図書館に魅力を感じてくれている人がよく図書館を利用してくれていることで、貸出数の多さにつながっているのではないかと思う。一方で、一定規模の施設を市域の中で9館抱えている現状で、各館の老朽化が進んでいる。今年度は空調工事に伴う東豊中図書館の休館があり、来年度は服部図書館と高川図書館が順次休館となる。図書館ではここ数年、財政上厳しい状況が続いており、施設は建ててからの維持管理に要する費用が大きいということの裏打ちにもなっている。

一方で、図書館では団体貸し出しも行っているので、来館しなくてもこども文庫を通して子どもたちが絵本と触れ合ったり、図書館はこども園にも本の貸し出しで支援しているので、そこで借りていただいたり、ということもある。直接のサービスと間接のサービスの両方がある。

地域の身近なところにある一定規模の図書館という今までのあり方が、職員数の削減や財政規模の縮小などの中で、維持していくことが厳しくなっている。これは、今回の図書館職員プロジェクトチームの中でも職員自身が感じていることでもある。学校連携や市

民協働といった今の豊中の図書館の良さを残しつつ、新しい形にどのように持っていけるのか、というところを、構想の中に盛り込んでいかななくてはならない。これは、職員のプロジェクトチームの結果から見えたことである。

資料や人員の分散は、強みと弱みの両方にある。

直接のサービスとして、こども園からお散歩の途中に図書館に立ち寄ってもらう、などは数字には表れていないが、市民アンケートの結果の中で、「豊中市立図書館の役割として重要と思うものをお選びください」の項目では、市民アンケートは普段図書館を利用していない人も回答者に含まれるが、「子ども読書活動の推進」が41.7%と最も多く選ばれている。普段図書館を利用していない人も含めた市民の意見として、今後の図書館の使命として受け止めていかなければならない。

市民アンケートの回答者の約半数は普段図書館を利用していない人なので、なぜ今利用していないのか、どうすれば利用してもらえるようになるのか、直接利用していなくても間接的にその人たちにサービスが届いているのか、なども考えていかななくてはならない。

アンケート結果は、よく読みこんでいかないといけないと考えている。

NATSについては、豊中の図書館としてどうしていこうかを考えているところである。内部的には、既に北摂地域の図書館の連絡会があるが、例えば西宮市には図書館が複数あり豊中と規模が似ているが、今まではそれほど関わりがなかった。図書館のサービスや今後のあり方などの情報共有や、可能かどうかは今後の研究が必要であるが、1都市では導入するのが難しいもの、例えば電子書籍のコンソーシアムのようなことができるのかどうかなど、電子書籍の導入については課題も多く、これから5年先10年先を見据えてゆっくり研究していくのであれば、NATSのような広域連携も活用できるのではないかと思う。まずは職員同士の交流を深めて情報共有をして、お互いのサービスの向上につながるような、例えば研修の共同開催などから始めていければと考えている。

●委員長

私が勤めていた県立図書館は、1980年はまだカード目録を活用していた。それが5年後の1985年になるとカード目録をなくしてコンピュータを導入し、これまでカード目録が占めていた場所が必要なくなった。急速に変化していった例である。最近の図書館は、ワンフロアで仕切りなしでフレキシブルに使える形になっているが、これからはまた違う形になっていくかもしれないので、いかに将来の変化に耐えられる建物をつくっていくか、ということが大切になってくる。

広域連携については、もっと議論を積み重ねて、コンピュータに関わるものは単独市で導入するよりは広域で取り組んだ方が効果的なこともあるかと思うので、ぜひ研究を進めていっていただきたい。

●委員

質問ではないが、何年か後に中央図書館ができるということを期待しているので、できるだけ急いでほしい。

また、この資料だけではわかりにくいので、例えば具体的な場所を示して、ここにこんな建物を建てようと考えているからそれについての意見を聞きたい、という感じで聞いて

ほしい。市民には、アンケートを読み込むだけの時間がないので、どんな図書館をつくらうとしているのかイメージしやすいプレゼンをしてほしい。来年度中に、具体的にこのようなことを考えている、ということを経視覚的にもわかりやすく示してほしい。

柔軟な頭で、例えば近隣3市で北摂中央図書館をつくる、というような発想もしていただきたい。

●委員長

実際に市民の人も入れてワークショップをする際には、どこにつくるのか、という話がすぐに出てくるだろう。いつごろに分かるのか。

●事務局

教育委員会議の中でも、どこにつくるのか、という質問を受けたが、まだ建設予定地は決まっていない。言えることとしては、建物の耐用年数が鉄筋コンクリートだと60年くらいと言われており、岡町図書館が築51年になるので、計算上は10年以内になんとかしなくてはならない、ということになる。

令和4年に南部コラボセンターができて図書館も新しくなり、その後も市として新しく建てる建物が続いていくと思われる。民間事業者と共同で建物を建てられないか、図書館の運営は別として、なるべく市の財源を使わずに建てる方法はないか、このようなことも含めて、今後の予定としてはまず来年度に構想を策定し、構想では機能などについての討議を進め、構想策定後はサウンディングなどの調査をして、どこにどのような建物をつくるのか、という具体的なことを継続して進めていく。

●委員長

予算の絡みも当然出てくるかと思うが、少しでも予算を効果的に使おうと思うと、図書館整備事例にも挙がっているように、複合施設にするという選択肢もあるだろうし、整備については直接ではなくPFIなど、民間の資金を活用するという手法も検討せざるを得ないだろう。まだ検討段階にあるということで、最終的にはそのあたりも踏まえて具体的な案が出てくるということによろしいか。

●事務局

そのとおりである。補足であるが、資料の中の整備事例で、多様な施設の設置状況を参考にするために、1月に愛知県大府市と安城市に職員が視察に行ってきたところである。

●委員長

骨子案の資料は紙1枚であるが、この中に図書館の思い、市民の思いも反映した図書館の思いをきちんとまとめていないと、なかなか伝わらないのかもしれない。また、これを説明するときに数字がいる、ということになるだろう。読んで伝わるような工夫をして、図書館の思いを盛り込んでまとめ、市民の人と議論していければいいと思う。

●委員

資料の中の現状分析を見ると、以前の協議会で中央図書館の機能について議論をしていたことを思い出した。立場が違くと強み・弱みのとらえ方も違ってくるので、同じようにこの資料を見ても感じ方はそれぞれだと思う。ぱっと見てすぐ分かるものではないので、これからわかりにくい部分など出てくると思う。特に、施設配置の基本的な考え方については、中央図書館だけの問題ではないので、そのところが具体的に分かるように書いていただかないと伝わりにくい。その部分を気にしている者にとっては、とても気になる場所である。コンセプトについては、今の協議会のテーマである高齢者のこととしても、これからの図書館を考える上で、「つながる。」というのは、ポイントになると思うので、いいと思う。

●委員長

図書館としては、このコンセプトで進んでいこう、というのは了解事項なのか。

●事務局

いろいろな立ち位置の職員自身が集まって短時間で集中して時間をかけて決めたものなので。庁内委員会の中で、これは図書館全体のイメージなので、中央図書館については別のコンセプトを掲げるか否かを検討していくべきとの意見も出された。「つながる。」という部分は、グランドデザインの流れも継承している。職員がコンセプトとして据えているので、今後はこれを広げていくことになるかと思う。

●委員長

他の委員からのご意見にもあったが、一人ひとりにとっての「わたしの図書館」というのは、中央図書館ではない。「つながる。わたしの図書館で。」を大きなコンセプトに据えるということは、一人ひとりに自分の図書館がある、ということになり、自分の図書館がどうなるのか、というところが問われるかと思う。このコンセプトを生かしていくためにも、丁寧にきちんと伝えていくということが、理解していただくうえで非常に大切になってくる。

●委員

「図書館の現状分析」の項目で書かれているように、情報発信の部分が弱みだということで、これからの図書館のコンセプトを「つながる。」としたのだと思う。これから図書館に対するニーズは、世代や生活様式などによって多様化していくだろう。メディアへのニーズが人によって変わっていくので、図書館の使い方が今後多様化していくだろうし、そのあたりの情報発信を図書館側から利用者に対して積極的に行っていくことが今後図書館にとって重要になってくると思う。

今、世の中がいろいろ大変な状況で、例えばトイレットペーパーが品切れになるのは、情報に対するニーズが高まっているけれども、どこから情報を得ればいいのかわからないという背景があるように思う。そういう時に図書館の情報発信力が重要になってくるのではないか。

また、学校では探求型の学習が今後の主流になってくると思うが、図書館に対する社会の認識が変わっていく中で、余暇や娯楽の利用以外の部分が図書館の強みになっていくのではないかと。その強みを生かしながら図書館の今後について考えていくいろいろなタイプの図書館利用について、図書館側から積極的に市民の皆さんに提案していってもらえるといいのではないかと。と思う。

●委員長

具体的なサービスの提案、というイメージですね。新しい中央図書館ができる中で、これからこのようなサービスができますよ、ということを構想の中で出していければいいと思う。個別の図書館の役割も含めて、そのあたりが具体的に出てくることによって、市民の方々の議論の基礎ができるのではないかと。と思う。

●委員

市民の新鮮なアイデアとして聞いてもらいたい。近隣の住民と中央図書館ができたらよいという話をする中で、市民の勝手なアイデアだが、お金がないなら寄付をもらったらいよいという話があった。寄付をしてくれた人の名前をつけたらよい。極端な例では図書館の名称に百貨店の名前を入れて、図書館建設費の半分を出してもらおう等も考えられる。千里体育館でもネーミングライツをやっている。

●委員長

日本は寄付の文化が未発達だが、特に文化活動については寄付の文化が今後大事になってくる。ロサンゼルスかどこかの図書館では、様々な団体が寄付をし、寄付の金額に合わせて部屋がある。一番大きな部屋がLGBTの部屋、次が中国、日本も寄付をしたが皆がばらばらに寄付をし、一方中国は華僑がグループでまとめて寄付をした。うまく活用すれば図書館にとってメリットがある。図書館の場合は寄付の使い方をきちんと考えておく必要はあるが、寄付そのものについては今後呼びかけていくべきものとする。

●委員

資料4の5で施設配置についても検討していくとあるが、豊中市の南部では小学校6校、中学校3校を小中一貫校2校に統廃合する計画が進んでおり、庄内さくら学園中学校が令和2年4月からスタートする。校区再編の中で通学にどのくらいかかるかということが検討材料となっていた。今は分館まで含めれば、2~3の中学校区に1つずつ図書館がある。小学校区は徒歩の移動圏内、中学校区は自転車を使う移動圏内、中学校区を2~3またぐと公共交通機関を使用しなくては移動できない圏域と考える。豊中は人口重心が北にあがっているが、どのくらいの住民数があるのか、中央館・地域館への移動距離がどのくらいあるのかを何らかの形で示した上で施設配置や施設数の検討がなされなければ理解を得られない。現時点では、子どもたちは徒歩、または自転車でそれぞれの地域の図書館へ通えるという状況がある。それが崩れるということになれば、様々な考え方も出てくるだろう。根拠を示していただければと思う。

●委員長

資料 4-1 の「図書館のコンセプト」は分かりやすい。分かりやすくすっと入ってくる文章は大事だと思う。このコンセプトを機軸にして今後の構想も検討をお願いする。施設配置については敏感に反応してしまうが、十分に説明をした文章にしてほしい。

3-2「図書館の整備事例」は 4 事例が上がっているが、なぜこの 4 つを選んだのかという説明も必要ではないか。

●事務局

特徴的な整備事例が全国的に広がっているの中で、その中で参考になるものを代表して挙げさせていただいた。最終的に構想としてまとめるにあたっては、どの要素を取り入れるのか、豊中としてどうアレンジしていけるのか、なぜこの事例を取り上げたのかという点について、丁寧に盛り込んでいきたいと考えている。

整備事例の特徴的なところとしては、民間事業者が整備し、運営は直営の安城市を例にあげ、その他、複合施設で子育て支援サービスを展開している荒川区の例や、市民協働で活動を展開している伊丹市のことば蔵の例等、サービス面での特徴的な図書館もあげた。骨子の中ではスペースの都合上割愛した。構想の中では丁寧に説明していく。

●委員長

この骨子をもとに来年度具体的に（仮称）中央図書館基本構想の策定を進めるということで、委員の皆様も積極的にご発言いただき、意見を寄せていただければと思う。

●事務局

新型コロナウイルス関連の図書館の対応状況を報告させていただく。感染拡大予防のため豊中市立図書館は 3 月 2 日から館内閲覧など一部のサービスを休止している。その後市内でも感染者が確認されたことから 3 月 9 日から全館休館となっている。3 月 31 日までの予定だが今後の状況により変更もありえる。休館中は、WEB やファックス、電話でのレファレンスの受付や、「図書館に行かなくても楽しめるウェブサイト」の紹介により非来館型のサービスの情報提供を行っている。

小中学校の休校により設置された臨時的な子ども居場所および放課後子どもクラブへの応援に職員を派遣した。学校図書館は子どもの居場所として各学校で活用されており、年度末にかけて業務の多い学校司書の負担軽減の一助となればということで、中学校司書と公共図書館の職員の応援体制を整え、小学校で子どもの見守りを行った。

庄内さくら学園開校の前段階として、令和 2 年度に庄内小学校と野田小学校が同居、第六中学校と第十中学校中が庄内さくら学園中学校として開校を予定している。引っ越しに伴い、学校図書館の蔵書の整理・統合作業の応援等行った。

休館期間をなるべく短く、令和元年から 2 年の年末年始にかけてシステムリプレイスを実施した。千里図書館の予約棚を野畑、東豊中、服部図書館と同じ簡易型に変更し、維持管理コストを下げることができた。ウェブページもデザインを一新し、資料種別ごとの蔵書検索や、本の表紙を見ていただけるようになるなど、利用者の声も反映させた形になっている。

●委員長

異例の対応続きであるが、子ども文庫はどのようにしているのか。

●委員

豊中市の子ども文庫では、集会所等活動の場が閉まっているところは休止している。私のところは家庭文庫なので、玄関先対応という形で返却の受付、借りたい本が分かっている場合は貸出も対応している。図書館が閉まってしまったので、少しでも子どもたちに本が貸出できればと思っている。それぞれの文庫で対応は違っている。

●事務局

今年度子ども読書活動推進の一環として豊中市内にある子ども文庫のご協力をいただいて、各文庫の活動を紹介するスライドを作成した。図書館の地域資料として受入れをし検索もできるようになっている。

●事務局

『北摂アーカイブス 写真展パネル一覧 2010～2019』を令和2年3月2日に発行した。10年前の3月3日に地域の写真を集めて公開する北摂アーカイブスというサイトを立ち上げ、写真だけでなくパネルを使って写真展を開催する活動等続けてきた。10年間の蓄積をこの冊子で表現している。写真パネルは約100枚あり学校への貸出も行っている。各図書館や公共施設での写真展では「懐かしい風景を見せてもらった」等の好評の声もいただいている。

●事務局

感染予防について大阪府が出している3つの要件を担保した上で、4月1日の開館に向けて少し前倒しして予約の受け渡しのスタートを検討している。まずは多数確保できている予約の貸出から始め、4月1日以降は感染者の状況を見ながら、来館して棚から本を選んでいただけるのか、椅子を撤去して本を選ぶだけになるのか、そのあたりを3月末までに状況を見ながら検討し、4月1日からのサービス拡大に向け調整を進めている。

●委員

3月の豊中市議会で豊中市立図書館について厳しい質疑があった。予算について市民一人あたり図書館費を令和2年度までに2,000円以下に抑えるという目標が達成できていないということについて厳しい指摘があり、図書館協議会についても市民を馬鹿にしている等言われ傷ついた。目標自体は目標なので達成できなかったことについては謝るべきことではあるが、それでも市民にとって必要なサービスを誇りと信念を持ってやっているなら図書館はそう言うべきではないかという議員からの意見もあり、図書館協議会の委員として、答弁の中では無理でもぜひ図書館にはそう言ってもらいたいと感じた。図書館協議会ではお金のことを度外視して議論してしまう。市民のために少しでもよいサービスをとって真摯に議論している。中央図書館構想にしても高齢者サービスにしても、お金のことは切っては切れない。無駄は省くべきだと思うが、ここはどうしても必要なサービスで

これだけお金がいるというのは言ってほしいし、これだけ頑張っただけ支持されているということをもっと言っても良いと思う。今回の新型コロナの騒動で図書館が開いていないと困るという声がこれだけあがると、図書館が大事と思っている市民がたくさんいるということをもっと言ってもらいたい。議会の中継はインターネットで録画が視聴できるのでぜひ見ていただき、協議会委員として図書館が行政の中でどういう立場にあるのか知っておいてもらおうとよいと思う。

●事務局

事務事業の中で、令和2年度に市民一人あたり図書館費2,000円を下回るという目標に取り組んできたが、達成できなかったことを教育委員会としても重く受け止めている。議会で市民に一定約束している重みもあるので、今の図書館の良さを残しつつ、これからの中央図書館の整備や施設再編の中で目標に向けてやっていくということを構想の中でも示していくという方針が教育委員会の中で決まっている。どんなことを中央図書館に残していったらよいのか、今の豊中の強みは何なのか、協議会委員の皆様のご意見が重要になってくるかと思うので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

●委員長

令和元年度第3回図書館協議会を閉会する。